

垂井町都市計画マスタープラン(案)に対するパブリックコメントの結果について

番号	種別	意見要約	町の考え方
1	垂現井状町との課題	「社会の主な潮流」として、コンパクトシティや脱炭素社会、デジタル化等は妥当だと思うが、他は疑問です。例えば「人口減少」「少子高齢化」「単身者の増加」「産業構造、働き方の変化」「外国人就労者の増加」等、もっと本質的な変化があるのではないのでしょうか。	「人口減少」「少子高齢化」など本質的な変化につきましては、P.1 都市計画マスタープラン改定の背景とともに垂井町の現状と課題の中で整理しております。 社会の主な潮流では、都市計画に関する基本的な方針を定めるあたり、特に都市計画などのまちづくりの面への影響を考慮した内容を記述しております。
2	都市づくりの目標	「輝く」とはここではどのような意味で書かれているのか分からない。	目指すべき都市像については、上位計画である垂井町第6次総合計画との整合性を図るため、同じ都市像を掲げています。 ここでは、豊かな自然や歴史・文化、地理的優位性といった本町の資源（垂井町らしさ）を最大限に活用し、今まで以上に、本町に関わるすべての人々が助け合いやさしさの心をもって躍動し、活気にあふれた町にしていくという意味を込めて「ひととまちが輝く」という表現としています。
3		「やさしさ」とはここではどのような意味で書かれているのか分からない。「さらなる」とあるので、既に「やさしさ」が存在していると思うが、具体的に何を「やさしさ」と認識しているのか示してほしい。	目指すべき都市像については、上位計画である垂井町第6次総合計画との整合性を図るため、同じ都市像を掲げています。 ここでは、地域住民による支え合いや一人ひとりが生きがいを感じられる活発なコミュニティ活動など人と人とのつながりを「やさしさ」という表現としています。
4		マスタープランから離れるかもしれませんが、町の発展を考えると、ここに生まれた人が残る、戻ってくる、または町外から子育て世代が移り住むように「若い世代（30代以下）、特に女性が住みたくなる」政策・計画を最優先してはと思います。また、産業面でも、企業誘致を製造業一辺倒ではなく、IT分野や教育（大学、専門学校等）等、これからの産業を見据えたバランスの良い振興策に基づいた土地利用計画を考えていただければと思います。	ご指摘のとおりと考えています。今後、特に20～30歳代の女性の減少が予想され、若い世代が働き、活躍できるようなまちづくりが必要と考えており、P.21 目指すべき都市像の中で、働く場の確保として幹線道路沿道での企業誘致（工場だけに限らず「IoTやAIの導入による最先端技術の取り組みを行う企業も意識した幅広い誘致」）、中心部での様々な事業所などの立地を考慮した土地利用を進め、働く場の確保を目指した取り組みを進める計画としています。
5		「すべてにやさしい基盤整備」の「やさしい」とはどのような意味で書かれているのか分からない。	将来の都市構造については、上位計画である垂井町第6次総合計画との整合性を図るため、同じ都市構造を掲げています。 ここでは、すべての人、環境などに対して「やさしい」、さらに誰もが安全で安心して利用できる、また暮らしの安全・安心を支える都市基盤を整備するという意味を込めて「やさしい基盤整備」という表現としています。

番号	種別	意見要約	町の考え方
6	都市づくり	ゾーニングはいいですが、未来に向けた計画というよりも単に現状を追認するものになっていないでしょうか。例えば、離山は工業集積ゾーンとなっていますが、周りは農地保全ゾーンであり、一貫性や長期的計画性があるのか疑問です。どの土地が農業に向いているか等の判断基準に基づいたゾーニングの計画を示していただけたらと思います。	ゾーニングにつきましては、上位計画である垂井町第6次総合計画との整合性を図り、10年後の令和12年を目標とした計画としています。
7	りの目標	ゾーニングは良いが、未来に向けた計画というよりも単に現状を追認するものになっていないか。例えば、府中の離山工業団地は工業集積ゾーンとなっているが、周りは農地保全ゾーンであり、矛盾しているように思える。その矛盾を「多世代」という言葉で上手くまとめているようにも思える。ゾーニングに一貫性、計画性がどこまであるのか分からない。	
8	都市づくり	歴史的景観(P.27)とは一般的に歴史的に形成された風土や事物のことだが、ここで書かれている「歴史的な景観」とは具体的にどの景色か分からない。	景観とは、「地域の自然、歴史、文化等と人々の生活、経済活動等との調和により形成されるもの」として、建築物や工作物から樹木など景色として見られるものも対象としています。ここでは、中山道垂井宿の町並みや歴史的な建造物等を指しています。
9	りの方針	養老SAスマートインターチェンジが開通したが、アクセス道路の整備がされていません。企業誘致をするにあたって、一番に利便性を掲げた方がいいのではと思います。	養老SAスマートICへのアクセス道路につきましては、P.31 道路交通の方針の中で、都市計画道路 府中栗原線（一般県道養老垂井線）を南北方向の骨格を形成する主要な道路として位置づけており、幹線道路網の整備として、交差点改良や拡幅整備を促進することとしています。また、企業誘致につきましては、P.24 将来の都市構造 工業集積ゾーンの中で、同路線の沿線については、利便性の向上と新たな企業を積極的に誘致することとしています。

番号	種別	意見要約	町の考え方
10	都市づくりの方針	巡回バスは子供自身で行けるように図書館も通るとよいと思います。全体的にですが、文化や教育面があまり重視されていない印象を受けます。垂井町は図書館や文化会館、体育館等が近隣の町に比べて小さかったり、設備が不足、老朽化しています。歴史だけではなく、子供たちはじめ今の住民が必要としている文化的ニーズに応える計画にしていきたいです。	タルイピアセンターへは、巡回バスによる利用が可能です。都市計画マスタープランは「都市計画に関する基本的な方針」を定めるものであり、ご意見の内容を位置づけるのは難しいと考えます。公共施設の整備につきましては、所管課における個別計画や公共施設等管理計画等に基づき、進めてまいります。
11		巡回バスは、図書館もひとつの拠点としてほしい。特に子どもが自分たちで行けるように利便性をあげてほしい。このマスタープランは全体的に文化や教育があまり考慮されていない。歴史文化資源だけではなく、子どもたちはじめ今の住民が必要としている文化的ニーズに応じてほしい。図書館や文化会館や体育館等、今の世代やこれからの世代が文化を育ていける環境づくりが必要ではないか。	
12		園児が安心して、自然の中で遊ぶ事ができる、公園を西相川の河川敷に作っていただきたいです。	
13	重点戦略	コンパクト・シティはいいですが、中心部の整備ばかりが優先され、他の地域に必要な整備がおろそかにされないか懸念します。例えば、岩手・大石には近くに公園がなく、子供向けの遊び場がない。小さくて良いから、文化やくつろぎの空間、設備を各地域ごとにニーズに応じて整備する等バランスの取れた土地利用計画を期待します。	市街化調整区域においては、人口減少の抑制と維持に努め、地域コミュニティ維持のための対策として、地区計画などの都市計画的な手法を検討し、市街化調整区域における複合的なまちづくりを進めていきます。
14	その他	大垣都市計画区域マスタープランは、垂井町都市計画マスタープランに対して具体的にどのような影響や制約があるのか分からない。大垣都市計画区域マスタープランがあることで、垂井町が計画してもできること／できないことがあるのか。	大垣都市計画区域マスタープランは、関係市町と調整し岐阜県が策定するマスタープランであり、垂井町都市計画マスタープランの上位計画にあたります。そのため、垂井町都市計画マスタープランは大垣都市計画区域マスタープランと整合を図り策定する必要があります。
15		垂井町の宣伝で、トラックが全国を走ると広報に取り上げられていましたが、しまむらの物流センターに関ヶ原となっていたり、ナブテスコの工場に岐阜工場となっているのを、垂井物流センターとか、岐阜垂井工場にしてもらった方がいいのではと思います。	